

東濃鉄道㈱路線バス帷子線について

1. 経緯

路線バス帷子線を運行する東濃鉄道から、「帷子線の今後のあり方について」の協議の申出書を受理し、令和6年7月開催の可児市地域公共交通協議会において、市としても路線のあり方に検討していくことを報告した。

当該路線については、令和5年度に実施した地域公共交通網形成計画の中間評価でも、さつきバスと比較すると料金が割高に感じる人が多くあったため、料金の平準化等をこれまで東濃鉄道と協議してきた。

そこで、利用者・運行事業者・市のそれぞれの立場におけるメリット等を勘案した上で、利便性の向上及び持続性のある安定運行を図るため、路線バスからコミュニティバスへの移行を検討していく。なお、当該路線については、運行事業者の東濃鉄道が撤退するわけではなく、タクシー利用も多いエリアであるため、路線定期運行型でのバスを想定する。

2. メリット

(1) 料金の平準化

さつきバスでは、乗車料金は1乗車 200 円で1回は料金不要で乗継が可能となるため、西可児駅を乗継停留所に設定することで、可児とうのう病院やヨシヅヤ可児店へ行ける西部線に乗り継ぐことができ、その場合は乗継料金が必要ない。

(2) 停留所の新設や移設等

「帷子地区センター」や「バロー西可児店」といった日常生活や社会活動において必要な場所にバス停を設置することが可能となる。

(3) 定期券の取り扱い

東鉄路線バスの定期券については、営業所窓口でしか購入できないが、路線上にある市役所でも購入できるようになる。

3. 検討事項

(1) 市の費用負担が増える

さつきバスへ移行した際には公費負担が増加する
(現状の運行形態であれば、約 300 万円増の見込み、※県補助金の対象)。

(2) 路線・ダイヤ・停留所について

現在は、3 路線を 1 台のバスで運行しているが、効率よく巡回するため、既存路線を一部変更するとともに、「帷子地区センター」等のバス停を追加する。

(3) 日曜・祝日の運行について

路線バスは日曜・祝日も運行しているが、さつきバスは月曜～土曜日の運行で、日曜・祝日は運休となる。他のさつきバス運行地区では、さつきバスの運休日において、日曜・祝日専用の「電話で予約バス」を運行しており、同様の対応を検討する。

(4) 運行車両について

さつきバスへ移行した際の車両案としては、現状の東鉄の中型バスを引き続き使用。ただし、いずれは、現在のさつきバスの路線を整理した上で、さつきバスで運行している「ポンチョ」の導入を検討する。

4. 今後のスケジュール （※最短の場合）

3 月 18 日	可児市地域公共交通協議会でさつきバスへの移行への検討を報告
4 月中旬～	各地区での説明会（乗り方講座含む）を開始（広報かに 3 月号に掲載）
7 月下旬	可児市地域公共交通協議会で運行案を報告
10 月頃	さつきバス帷子線の運行開始